

全猫のTNRで見えた人との共生

“猫の楽園、青島を救え！”

瀬戸内海に浮かぶ周知4・2キロの小さな島・青島が一躍、脚光を浴びたのは2013年の夏のこと。動物カメラマンとして世界的にも有名な若谷光昭氏が青島を訪れ、猫たちを撮影。その様子がテレビ番組で放送されるや、たちまち青島は「猫の楽園」として注目を集める。

「さらに島民10数人に対して猫が100匹、猫密度の高さが動画サイトで話題になると、閲覧者数はあつという間に数百万人に達し、国内はおろか世界各国から猫と触れ合いたい、と願う愛猫家たちが訪れ、島は観光客であふれ返ってしま



昨年10月に行ったTNRの事後調査（今年4月）には、フランス国営テレビの取材班も来行

「た」（佐上さん、以下同）やがて猫が増殖したこと、恐れていた事態が起きるにやせ細った負け組の猫が

佐上邦久さん
公益財団法人「どうぶつ共
生」理事長。殺処分されよう
と犬猫の状況を改善しようと
保健と連携し、TNRを
全国各地で実施している

合い、2018年10月、ま
うやく「どうぶつ基金」に
よるオス・メス一斉TNR
※が行われることとなる。

島内に宿泊施設はなく、
コミュニティセンターで仮
眠をとりながら、たった3
人の獣医が20名のボランテ
ィアスタッフとともに17
2匹の不妊手術および、ワ
クチン投与、ノミダニの駆

除を行った。
「手術を終えた後、島民の
方が、70年間生きてきて今
日がいちばんうれい。あ
りがとう、と言われたのを
覚えています。このひと、言
と、佐上さんは当時を振
り返った。

「私の県では、殺処分数が
全国でも上位だったのに、
ある年に、いきなり殺処分
ゼロを達成しました。で
も、根本的な問題は何も解
決されていません。

臭もなくなっている。そし
て何より、子猫が生まれた
形跡もなく胸をなでよろし
ました」

「5年越しの不妊手術が決
まっただけで、当初予定さ
れていた9月は台風のため
に1か月延期。満を持して
10月2日に上陸するも連絡

船が欠航となり、当初3日
間で行う予定を急ぎよ一昼
夜で行わなければなりません
でした」

「殺処分ゼロ」達成
の裏側では……
こうした「どうぶつ基
金」のTNRの取り組み
は、年々増えている多頭飼
育崩壊でも十分に効果が得
られると佐上さんは話す。

「多頭飼育崩壊に陥ってい
る人たちは、まず身近な人
やボランティアに相談する
ケースが多く、ボランティア
と行政が緊密に連携でき
れば、早期の介入が可能に
なります。

「2017年度に行われた
猫の殺処分数は全国で3万
5000頭あまり。そのうち
、保健所やセンターに持
ち込まれた所有者不明の猫
の73%が生まれて間もない
子猫です。不妊手術さえし
ていれば、生まれてすぐ殺
される悲劇は、起きていな
かったはず」

ペットとともに 生きるということ



さらに行政が飼主のいる
猫の手術費用を捻出する
のは難しいので、全国の行
政に、協働ボランティアに
登録申請してもらい、「ど
うぶつ基金」で手術を行い
問題を解決するケースも増
えています」

「猫たちは毛並みもよく太
つており、健康状態も良
好。不妊手術をしたおかげ
で、猫同士のケンカも見ら
れず、マーキングなどの悪

「猫たちは毛並みもよく太
つており、健康状態も良
好。不妊手術をしたおかげ
で、猫同士のケンカも見ら
れず、マーキングなどの悪

次号おうちで純喫茶レシポ、ナポリタンにオムライス…情報満載号は10月15日(火)発売